

# 立正大学 史料編纂室の

vol.06

第6号 2020年3月

椿田 卓士氏（東海大学 学園史資料センター 学園史編纂員）

## 『東海大学七十五年史』の編纂を終えて

【第6回立正大学史料編纂室主催講習会・講演要旨】

2019（令和元）年7月5日（金）、立正大学品川キャンパスで第6回立正大学史料編纂室主催講習会が開催されました。今回は講師に東海大学学園史資料センターの椿田卓士氏をお招きしました。本誌では講演要旨を掲載いたします。詳細につきましては『立正大学史紀要』第5号（2020年3月刊行予定）に掲載いたします。ご参照ください。

### 1. はじめに

私ども東海大学は、建学75周年記念事業の一環として、2017（平成29）年度に『東海大学七十五年史』（以下、『七十五年史』）の図録を、翌2018（平成30）年度に同じく通史篇と部局篇を刊行しました。今回は、この『七十五年史』の刊行に至るまでの過程を中心にお話させていただきます。

本学は2017（平成29）年の建学記念日である11月1日に建学75周年を迎えました。戦時下の1942（昭和17）年12月に法人認可となり、翌年、静岡県清水市（現在の静岡市清水区）に開校された航空科学専門学校が本学のスタートになります。

本学では年史としてこれまで『回顧と前進 東海大学建学の記』（1963年刊）、『前進する東海大学』（1967年刊）、『三十年の歩み』（1972年刊）、『東海大学建学史』（1982年刊）、『東海大学五十年史』（通史編、部局篇、図録、1993年刊）の5冊を刊行してきました。『七十五年史』は『五十年史』を引き継ぐかたちで、通史篇と部局篇、図録と同じ構成になっています。

私が所属する学園史資料センターは、2003（平成15）年4月に学校法人直属機関として設立されました。施設としては事務室のほか、収蔵庫、保管庫があります。本センターの業務は、「学校法人東海大学組織及び業務分掌規程」に「法人年鑑、年史の編纂及び作成に関すること」と位置づけられています。常勤5名、アルバイト8名の13名で構成され、私が主任を務めております。

### 2. 『七十五年史』編纂事業の経緯と組織体制

『七十五年史』の編纂体制が動き出したのは2011（平成23）

年です。同年1月に学校法人東海大学建学75周年記念事業委員会が発足、将来ビジョンやミッションに加え、募金や記念式事業について検討することになりました。翌2012（平成24）年4月、建学75周年記念誌編纂委員会が発足、記念誌の基本方針と骨子が策定されました。同年5月の記念誌編纂委員会で、学園史資料センターが記念誌作成の事務局を務めることが決定、2013（平成25）年4月に編集委員会が発足し、『七十五年史』編纂の実質的な作業がスタートしました。

2014（平成26）年6月に記念誌の名称を『東海大学七十五年史』と決定し、編集委員会の名称も東海大学七十五年史編集委員会と正式に決められます。メンバーには学園所属の教員14名が選定され、うち2名が前回の『五十年史』の編集委員でした。2013（平成25）年6月以降、通算33回開催された編集委員会では、研究委員会も開かれ、①学園関連書籍の輪読、②各執筆委員からの研究、進捗状況の報告、③学園史資料の収集状況報告、④学園関係者の講演および研修の4点が実施されました。研修では、地方キャンパスの現地見学の機会も設けました。

そのほか執筆委員間の意見交換を目的に、編集委員長と副編集委員長同席のもと執筆委員会を立ち上げ、通算28回開催しま



した。あわせて、執筆委員には原則として週に1コマを取っていただき、学園史資料センター事務室の隣の編纂室にて、執筆作業や資料調査をお願いしました。

### 3. 編集作業の展開

2014（平成26）年6月、大きく3つの柱で定めた『七十五年史』の編集方針が記念誌編纂委員会で承認されました。1つ目が記念誌の正式名称を『東海大学七十五年史』とし、通史篇と部局篇で構成すること、2つ目は編纂方針ならびに編集・執筆方針の策定、3つ目が『東海大学七十五年史編纂だより』（A4、全8頁、2,000部）の刊行です。

2つ目の編纂方針案については、以下の7点が示されました。  
①『五十年史』の内容を再確認し、その後の25年を中心に執筆、  
②図録と通史篇、部局篇の3冊を刊行、③通史篇は500頁、部局篇は800頁、図録は200頁程度、構成は建学から50年を20%、その後の25年を70%、未来への展望を10%とし、④詳細年表や学部学科の変遷表などの資料集も別途作成する、⑤通史篇は全編カラーとし、デザイン、レイアウトを工夫して読みやすくし、⑥IT技術やインターネットを活用したデジタル版を作成、最後に⑦編纂資料を未来へ継承できる体制や組織づくりについても確認されました。

また、執筆編集の方針案ですが、通史篇と部局篇をそれぞれ別に作成しております。まず通史篇の方針は、①建学の精神に基づき、先駆けの道を歩んできた学園の足跡を辿り、100周年へと方向づけ、②『五十年史』を再確認し、その後の25年の事象を中心に執筆、③学生・生徒や教職員の顔が見えるような叙述、④社会全体の動向を考慮しつつ、資料記録を駆使し、科学的かつ体系的に執筆するという4点が示されました。

部局篇の方針は、①部局ごとに幹事（担当者）を選出、②『五十年史』部局編の記述を受け、その後の25年を中心に叙述、③各部局の年表を本文の後に掲載、④事務局が作成する下原稿と『五十年史』を参考に執筆、⑤合併、改編された部局は現部局が執筆、⑥閉鎖された部局は事務局が執筆するという6点でした。

以上の方針のもと、事務局では『五十年史』に含まれる資料の洗い直しをしたうえで、『七十五年史』編纂のための資料調査を行いました。法人本部や大学運営本部、大学広報部など各部署に資料提供を依頼し、文書や写真等の複製収集および一部リスト化を実行しました。そのほか図録篇の写真史料を再構成し、記念企画展「東海大学75年 写真から見る75年の歩み」を開催しました。

### 4. 『東海大学七十五年史』の刊行

『七十五年史』刊行までの経緯についてご紹介します。まず図録篇ですが、2015（平成27）年度から事務局で構成案を作成し、翌年に体裁や資料を検討、判型はA4判、並製本に決定、台割りを作成後、頁数も決まりました。2017（平成29）年10月に校了し、使用写真数は『五十年史』図録よりも少ない338

第6回 立正大学史料編纂室主催講習会

# 『東海大学七十五年史』の編纂を終えて

講師：格田 卓士 氏（東海大学学園史資料センター 学園史編纂員）  
日時：令和元年7月5日（金）18:00～19:30  
会場：品川キャンパス 11号館 8階 第6会議室  
対象：本学の教職員・学部生・大学院生、その他アーカイブズに興味をお持ちの方  
参加費：無料（どなたでもご参加いただけます！）

今年度は、2018年度をもって『東海大学七十五年史』の刊行を終えたばかりの東海大学学園史資料センターから格田卓士氏をお招きし、七十五年史編纂に関する組織運営や執筆体制についての経緯と現状などをお話しできます。

刊行して間のない事例となりますので、周年史を編纂する大学や企業などの担当者の方にとって新鮮な内容になると思われます。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。



【問い合わせ】立正大学史料編纂室 品川キャンパス 4号館1階  
電話：03-3492-2690 Mail：archives@ris.ac.jp

点でした。

次に通史篇です。2013（平成25）年6月頃から6名の執筆委員の担当割りを始め、翌年7月に通史篇の執筆要綱案を策定、執筆開始、2017（平成29）年10月末を提出期限としました。提出原稿は逐次事務局で内容や表記統一を確認しまして、2018（平成30）年4月より逐次入稿、同年8月に入稿完了となりました。校正については、事務局員とともに各編集委員、法人本部や大学本部にも校閲をお願いしました。2018（平成30）年12月に校了となりました。

続いて部局篇ですが、2014（平成26）年度から事務局で原稿サンプルを作成、編集委員会で書式や記述内容について検討しました。あわせて立項する部局名の抽出作業と割り当て頁数の調整を進め、翌年6月、各部局に幹事の選出とともに、刊行物の提供を依頼しました。同年7月には、10カ所をテレビ会議で繋ぎまして、各幹事参加のもとで編集方針や執筆に関する説明会も行いました。

部局篇の原稿は、結果的に一部の部局を除いて事務局が草稿を作成し、各幹事に校閲をお願いしました。付属学校19部局につきましては、幹事に執筆を依頼し、内容の統一性をはかるため、付属自由ヶ丘幼稚園園長と付属相模高等学校教諭・教頭補佐の2名を新たに編集委員に加え、調整を依頼しました。2017（平成29）年4月に、一部の廃止や閉鎖部局も含め、結果的に88部局を立項対象とし、記述内容の年代的下限を2017（平成29）年10月末に設定しました。2018（平成30）年2月以降に

逐次入稿され、同年7月には完了致しました。校正は事務局員のほか各担当幹事、各編集委員、さらには通史篇と同じく法人本部や大学運営本部など複数個所に校閲を依頼し、事務局が集約しました。集約作業に手間が掛かりましたが、2018（平成30）年9月に校了となりました。

そして、2019（平成31）年2月に製本版の通史篇、部局篇2冊のセット計650部が納品され、学園内外各機関、公共の図書館や文書館などに送付しました。電子ブックとPDFの2形式で収録したデジタル版も作成し、建学75周年記念事業寄付者に配布しました。

## 5. おわりに

本学園は2017（平成29）年11月1日、75周年目の建学記念日に『学園マスタープラン』を策定、「2017年、学校法人東海大学は建学100周年に向けて、日本で、世界で、先駆けとなる新たな挑戦をスタートさせます」と明言しました。75年の歴史を基盤として建学100周年を見据えた総合戦略が立てられ、当センターにとっては来るべき『東海大学百年史』の編纂のための体制と基盤づくりが新たな目標となっています。そのためには、『七十五年史』の成果を再検討しつつ、編纂業務で集めた資料の整理保管、目録化を弛まず継続することが重要であると考えています。以上で私の報告を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

## 立正大学史料編纂室のオーラル・ヒストリーについて

立正大学史料編纂室では2014（平成26）年度より、文書史料では残されていない本学の歴史を発掘し、『立正大学百五十年史』（以下、150年史）の執筆に役立てるという目的で、本学教職員へのオーラル・ヒストリー調査を実施してきました。現在までに7名の方々にお話をうかがっております。

最初の3年間は、長年、本学に関わるの方々から、文書史料にない150年史の執筆に役立つような記憶や語りを聞き取り、それを手掛かりに記録（文書史料）を探すことを目指しました。公式な記録に残らないような内容も本学の歴史の重要な一部であると考える一方で、インフォーマント（話者）に忌憚なく話していただくためにも、「原則として内容を公開しない」という方針で進められてきました。しかしながら、公開されることのない語りを毎年溜めていくことへの疑問が湧き上がり、数多くの方々とその内容を共有すべく、2017（平成29）年度から『立正大学史紀要』にて公開させていただくことになりました。

御厨貴『オーラル・ヒストリー—現代史のための口述記録』（中公新書、2002年）によりますと、オーラル・ヒストリーは「公人の、専門家による、万人のための口述記録」と定義されており、「日本オーラル・ヒストリー学会」という学会もあります。我々が実施しているオーラル・ヒストリーが標準的であるかはともかくとして、これ

まで我々が実践してきたのは、経歴を事前に詳しく調査したうえで（ご本人にも尋ねています）、本学の歴史的出来事の背景に加えて、インフォーマント自身の関与のあり方や様々な思いを聞き取り、それらを総合的にまとめるスタイルを取っております。インタビューとインフォーマントの対話から、思いがけない情報が得られることもありました。

事前準備の関係で、例年1名ずつにとどまっておりますが、150年史の編纂が完了したあとは、実施人数を増やすことを考えて良いのかもしれませんが、大学をつくっているのは、やはり人だと思われまます。大学を構築してきた人々の口述を文字として残すことで、文書史料だけでは明らかにできない本学の歴史が立体的に浮かび上がってきます。先達が体験したことは、我々のような後輩の教訓にもなります。

今後もオーラル・ヒストリーは継続する予定ですので、ご興味をお持ちの方は『立正大学史紀要』掲載の本欄をぜひお読みいただければと思います。バックナンバーは、編纂室の「オープンキャンパス展示」（例年7～8月に開催）のほか、「ホームカミングデー展示」（例年11月開催）でも配布しております。その際はお声をかけていただければと思います。

### ■これまでにお話をうかがった方（敬称略、役職等は当時）

1. 沼 義昭	名誉教授	2014（平成26）年7月2日	内容未公開
2. 中原健次	前立正中学・高等学校長	2015（平成27）年6月18日	内容未公開
3. 山崎和海	立正大学長	2016（平成28）年2月25日	内容未公開
4. 清水多吉	名誉教授	同 年5月24日	内容未公開
5. 北原 進	名誉教授	2017（平成29）年6月1日	『立正大学史紀要』 第3号掲載
6. 山下正治	名誉教授	2018（平成30）年10月26日	『立正大学史紀要』 第4号掲載
7. 高村弘毅	名誉教授・元学長	2019（令和元）年7月11日	『立正大学史紀要』 第5号掲載予定

# 令和元年度購入史料の紹介

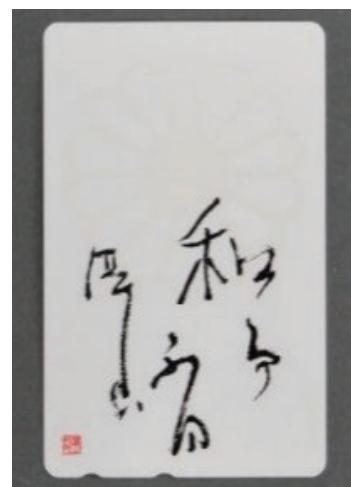
本室では、大学アーカイブズの充実を図るため、積極的に史料を購入しております。令和元年度に本室で購入した史料は、14点に及びます（令和2年3月6日現在）。ここでは、その一部をご紹介します。



①第2代日蓮宗大學林長・小泉日慈氏による宗祖日蓮像の掛け軸



②第16代学長・石橋湛山氏直筆の「墨竹画」



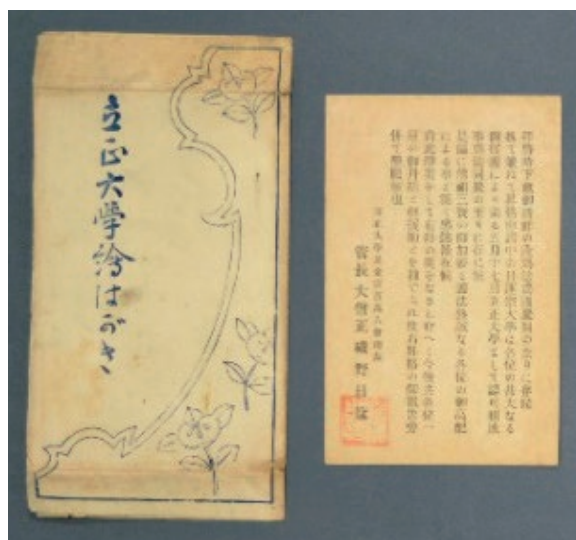
③第2代自由民主党総裁時の、第16代立正大学学長・石橋湛山氏の揮毫テレホンカード「和而不同」



④レコード「立正大学 学園歌・校歌」（立正大学同窓会作成）



⑤立正大学経済学部第11回卒業記念ベルトバックル（1963（昭和38）年制作）



⑥「立正大学絵はがき」



⑥-1「大学校舎」



⑥-3「来賓室」



⑥-2「中学校舎」

※ 1924（大正13）年5月17日の立正大学設立認可当時の絵葉書セット



立正大学史料編纂室の葉  
第6号

発行日：2020年3月25日  
編集発行：立正大学史料編纂室  
編集代表：平 伊佐雄（専門委員・広報担当（本学経済学部准教授））  
〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16  
TEL. 03-3492-2690 FAX. 03-5487-3339